



検査成績評定項目別評定表(電気)

第2号様式の3

評定項目	細目	評点	評価対象項目
施 工	出来形		各機器の外観、構造、寸法が設計値(設計図書)を満足し、バラツキが少ない。(外観構造寸法検査)
			各機器の性能が、試験機器を使用し、数値データの採取により、設計値(設計図書)を満足し、バラツキが少ない。(性能検査)
			点滅、運転、停止等の動作について、施工した工事の全体又は部分が設計値(設計図書)を満足し、バラツキが少ない。(機能検査)
			建物、施設等の施工範囲及び施工範囲外の設備も含めた全システムの総合試験が、設計値(設計図書)を満足している。
			運転して、異音、異臭、過熱等の異常がない。
			諸官庁検査のあるものは、検査を受け合格している。
			現場で試験確認の出来ない機器は、工場試験成績書又は出荷証明書等で照合・確認ができる。
			設計値(設計図書)に定めのない機器の品質及び施工は、関係法規に適合している。
			検査用測定機器の管理が適切である。
			人員の配置(検査体制)が適切である。
			( )
		評定点	/ ( × 3 ) × 100 =
管 理	出来ばえ		堅牢で誤差がなく、設計図書どおり正確に施工されている。
			寸法にバラツキがなく、設計図書どおり施工されている。
			品質・形状及び数量が適切に施工されている。
			施工完了時の試験及び記録が適切である。
			設計図書及び関連法規に適合している。
			きめ細かな施工がされている。
			関連工事との調整がされ、全体に調和がとれた仕上がりである。
			建築電気設備としての品質・性能が確保されている。
			使用者に対する安全性などへの配慮が適切である。
			運転及び保守点検に対する配慮が適切である。
			出来ばえの向上のための、創意工夫が見られる。
		( )	
	評定点	/ ( × 3 ) × 100 =	

1各評価対象項目は、良好(3点)・普通(2点)・やや不良(1点)・不良(0点)の4段階評価とし、チェックボックスに各点数を入れる。

2 評定点は、下記の算式により算出する。(小数点以下第二位を四捨五入)

$$(\text{評価した項目の得点合計}) / (\text{評価した項目数} \times 3) \times 100$$

3 評価対象項目のうち対象工事の内容に合致しないものは、評価せずに空欄とする。

4 評価対象項目を追加することが妥当である工事は、項目を追加する。